

平成 31 年度 京都市立堀川高等学校経営要項

平成 31 年 4 月 1 日

1. 最高目標

校訓「立志・勉励・自主・友愛」に示された自立、独立の人間形成を図るため、教育方針及び学校教育の重点に基づく教育活動の推進を通して「豊かな学校」を構築し、「自立する 18 歳を育成する」ことを最高目標とする。

最高目標の達成を図るため、以下の 3 点を指導の柱とする。自己変革、意識改革をもって一步踏み込んで重なり合う相互の連携による組織的教育力の向上を図ることにより、生徒個々の成長につながる「豊かな学校」の実現をめざす。

○生徒に教養の獲得を促す指導

社会生活を営む上で必要な基本的教養を培う場であるという認識に基づいて、人文・自然・社会全般にわたる教養教育を進める。論理的、批判的、分析的、複眼的な思考を育てる言語活動を通して、思慮に富み、正当な批評力・判断力と行動力を有する人材の育成に向けて、各教科・総合的な探究（学習）の時間の授業改革と指導方法・評価方法の研究と実践と改善に取り組む。

○自己実現を図る進路目標の設定と達成に向けた取組を支援する指導

将来、社会においてどのような形で他者との関係性を構築するかということを前提とした自己実現を促す。本校卒業後の進路目標の設定と具体的な進路選択に向けた生徒個々の取組を計画的かつ適切に支援するとともに、希望実現に必要な能力開発・情報提供に関する研究と実践に取り組む。

○幅広い経験に基づく人間形成を図る指導

主体性・社会性・協調性・健康管理を含めた自己管理能力、また自他の存在と命を尊重する人権意識、倫理観、人間としての在り方生き方を考え、他者と共に生きるための道徳性を養うため、授業のほか特別活動・委員会活動・自主的課外活動・部活動など、さらには学校生活全般において、さまざまな経験を重ねることのできる機会を提供する。生徒が意欲と関心をもって積極的に参加し自らの人間形成を図れるよう、計画的かつ適切な助言・評価に関する研究と実践に取り組む。

2. 学校経営方針

平成 5 年以来の学校改革に向けた模索と行動を通して得た経験と認識に基づいて、次の 5 点を学校経営の柱とし、目標と情報を共有し、自己点検と相互評価を進め、教職員個々の指導力と学校としての組織的教育力の向上を図ることによって最高目標の達成をめざす。

（1）改革の精神とプロ意識

生きる主体である「個人」を育む視点から教育の在り方をとらえる。「二兎（日々の学習と探究活動）を追う」ことを通して、最高目標の実現を図る。

（2）「明確な目標設定と情報の共有」による目標達成に向けた協同の実現

授業をはじめとする教育活動の目標を適切に設定することと、それらに関わる情報を共有することによって目標達成に向けた効果的な協同を図る。その際に問題解決にとどまらず、その周辺、大局を見据え、目標を設定し、緊密な連携を図る。

（3）「教職員及び校務分掌間の一層の連携」による効果的かつ効率的運営

情報伝達の円滑化と効率化、会議の精選と効率化、教職員間と校務分掌間・校務分掌内の連携強化を一層促進するとともに、責任意識の向上を図ることによって、効果的な運営を行う。

（4）「学校経営への参画機会の拡大」による経営意識の向上とリーダー育成

教職員個々の経営への参画意識の向上を図るとともに、次世代リーダーの育成を推進する。

学校は教職員の複合体であり、その多様性に対応した経営を進め、学校組織の基盤である教職員個々の経営への参画意識と危機管理の向上を図るとともに、次世代リーダーの育成を推進する。

（5）「指導経験と活動成果の引継」「業務分担の適性化」による教職員のゆとりと意欲の創出

日常的な研修と交流を活発に行い、指導経験や活動成果を教職員・校務分掌・学校に蓄積し活用することを通して、効果的な教育活動推進に不可欠である教職員のゆとりと意欲の創出を図る。